

開催報告

# 無縁社会から共生社会へ 待ってちゃ未来は変わらない!

開催日 2014年11月10日(月)  
10:00~12:30  
会場 東京都生協連会館 3階  
参加人数 32名  
主催 東京都生協連消費者行政連絡会

■スケジュール■  
10:00 開会挨拶  
10:05 講演1  
10:50 講演2  
質疑応答  
11:45 休憩  
11:55 ミニワークショップ



## 講演1 「子どもの貧困対策法を「生かす」ために！」

「なくそう!子どもの貧困」全国ネット 山野良一さん



子どもの虐待と貧困の関連性や、日本の子どもの貧困の特徴点、さらには「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワークが2010年春取り組んだ「卒業クライシス」という問題から見てきた教育制度の貧困についてお話しして頂いたあと、日本の子どもの貧困の解決にむけて、ヒントになる考え方などを伺いました。

### 虐待が行われた家庭の状況

2003年度に東京都の児童相談所が児童虐待として対応を行った1694件の相談事例を対象に、担当者がその家族がどういう状況にあるかを複数選択でチェックした調査の結果、以下の5つが多かった。

ひとり親家庭

経済的困難

親族、近隣等からの孤立

夫婦間の不和

育児疲れ

経済的困難を一番にあげていない他の4つでも経済的困難は2位。ひとり親と経済的困難、夫婦間の不和経済的困難といった具合に虐待と貧困は絡んでいるケースが多かったという調査結果となった。他国と比較しても、ひとり親世帯の貧困率は世界で2位の高さとなっている。

### 最新の子どもの貧困率と現状

親の負担に頼ってきた教育制度。  
給付型の奨学金がない日本で揺らく日本の「子どもの権利」

- \*子どもは16.3%、全体の数値は16.1%。2009年から子どもの貧困率は0.6%上昇している。
- \*少子化で子どもの数は減った、しかし貧困状況にある子どもの数は5万人増加。
- \*ここ10数年で日本全体が貧困化している。その上で子どものいる世帯では格差も増している。
- \*親たちの非正規労働化、低所得化。子どもの貧困は貧困だけに終わらない。

### 世界で一番大学に行きにくい国・日本

6人にひとりの子どもが貧困、日本全体では人口規模で約325万人の子ども達、30人クラスには5人が貧困。

- \*幼稚園から大学まですべて公立でもひとりの子どもにかかる教育費は977万円。私立だと1566万円。生活費を含めると学生たちの自己負担分の割合の大きさは先進国で1番。
- \*コスト(学費+生活費)(一人当たりの所得の中央値比)ではメキシコに次いで2位。
- \*給付型の奨学金がないのは日本だけ。結局学生たちの自己負担の割合が多いのは先進国で1番。

### 子どもの貧困対策法

2013年6月に国会にて全党一致で成立。「貧困」の名がついた初めての法律。子どもの貧困問題を世の中に周知させるには活用できる法律だが課題も多い。

### 大綱案に盛り込むべき事項

最悪となった貧困に危機感を持ち、具体的な数値目標や財政措置も必要。

教育の支援

生活の支援

保護者の就労支援

経済的支援

\*池袋wakuwaku学習支援と子ども食堂 \*京都山科醍醐こどものひろば  
\*大阪西成区 中学校区単位の児童虐待防止ネットワーク（要保護対策地域協議会）と児童館などを利用した子どもの居場所づくり（駆け込み寺）



●子どもは社会が一時的に親に託したのに過ぎない。

親の虐待、病気、経済的などの理由で子育てがうまくいかなかった時は社会が親や子どもを援助するのは当たり前。

●社会全体がひとりひとりの子どもの親。存在そのものが「外部経済」

●子どもは社会連帯の「かすがい」 - 分断されつつある社会に最も必要な存在。

講演2「地域を変える 子どもが変わる 未来を変える」

豊島子どもWAKUWAKU ネット代表 栗林知絵子さん



子ども食堂や無料塾に取り組み事になった経緯や、そこに来る子ども達との関わり、これから地域に期待する新たな提案などについて、NHKで放送された番組を織り交ぜながらお話をしました。

2011年の夏、プレーパークに遊びに来る中学3年生のT君が、「高校行けるか分からない」「成績が悪いから都立無理って言われた」という一言から栗林さんの学習支援活動が始まった。T君は母子家庭。母親は仕事に追われてT君の食事も1日500円で本人がやりくりをしていた。勉強が難しくなってきたら学生達に手伝ってもらってT君は無事都立高校入学。その後、経済的貧困に左右されることなく誰もが学ぶことが出来るようにと、無料の学習支援を学生や地域住民でスタート。毎週水曜日の午後開催している。

あさやけ子ども食堂は、子どもが1人でも入れる食堂。みんなでわいわい食べる楽しさ、美味しさを知ってもらうこと、栄養のバランスのとれた食事をとってもらうためにスタート。毎月、第一と第三水曜日の17:30~19:00オープン。誰でも300円で夕食を食べられる。子どもはお手伝いをすれば無料。50食作ってもスタッフ分が確保できない時もある。食事の後は大きい子が小さい子のために本を読んであげたり、紙芝居をしてあげたりと食事だけではなくつつろぎのスペースにもなっている。



活動は「正しい」からやるのではなく、楽しいからやる。部活動感覚♪



栗林さんからの提案

おはよう！バナナに取り組んでみない？

知ってる子どもを増やそう♪



朝子ども達を通る場所、例えば小学校の近く等に「まちかど子ども食堂」(スタンド形式)を設置してバナナを準備。お腹の空いている子、朝ごはんを食べないで登校する子どもが、立ち寄ってバナナを食べられるようにしてみないか。空腹の子ども達を減らすとともに、地域の人とそこで交わす挨拶、会話によって、地域と子ども達のつながりを生みだし、地域で子ども達を見守ろう！地方から出てきた新人OLさん、サラリーマンの支援もOK♪

ミニワークショップ

講師のお二人のお話で心に残った言葉や感じたこと、これからやってみたいことなどをグループで交流しました



OSEKKAERU

おせっかいをされた子は大人になっておせっかいを返します。おせっかいがかえるのでおせっかえるです。子ども食堂にきている子が作ってくれました。

【アンケートの感想から】

山野さんのお話はとてもわかりやすく、日本の子どもの貧困について現状を理解することができました。子どもの貧困の定義などを知り、かなり深刻な問題だと受け止めました。栗林さんのお話で、人と人、地域のつながりの重要性、人の気持ち、おせっかいで変わっていくことがあることを感じました。

「おはよう！バナナ」はぜひ広がって欲しいです。